

桃太郎の袖マーク

プロ野球のユニホームの袖には、さまざまなデザインのマークがついていますが、今回ご紹介するのは、めずらしい桃太郎の袖マークです。東京オリオンズ（現千葉ロッテマリーンズ）は、1966年6月21日から、それまでの赤白青三色のワッペン型の袖章に代えて、首話に登場する桃太郎をユニホームの左袖に付けました。当時の永田雅一オーナーが「日本的でもっとも力持ち」のペットマークを希望したところ、デザイナーから金太郎と桃太郎の2つの案が提案され、このうち「気は優しくても力持ち」の桃太郎が採用されたといわれています。

写真のユニホームは1968年のもので、袖には刀のかわりにバットを振る桃太郎がとてもきれいな色で刺繍されています。背番号7は、「足長おじさん」のニックネームで親しまれたジョージ・アルトマン選手です。アルトマン選手は、大リーグでは1959年から主にシカゴ・カブスで外野手として活躍。1961、62年にはナショナル・リーグの代表選手として連続でオールスターゲームに出場。61年のオールスターでは、本塁打を放っています。1968年に来日し、74年まで東京オリオンズ、ロッテオリ

オンズに在籍。75年に阪神タイガースに移籍し、この年限りで引退しています。

このユニホームが使われた1968年は来日初年度でした。打率3割2分、34本塁打、100打点という素晴らしい成績で、打点王のタイトルも獲得しています。190cmを超す長身の外国人選手が、かわいらしい桃太郎のマークを袖に付けて大活躍をしました。



アルトマン選手のユニホーム



桃太郎の袖マーク